

日野原重明ダイアローグ

日野原重明 著

＜書評者＞ 高久史麿（日本医学会会長/前・自治医大学長）

本書は日野原重明先生の講演録、インタビュー、座談会などを中心にまとめたもので、話の内容は、W・オスラー博士の数々の言葉の紹介、医学教育、研修制度、プライマリ・ケア、ホスピス、診療録、臨床疫学の在り方、EBM、看護教育など極めて広範囲にわたっている。

日野原先生はさまざまなシステムを日本に導入された医学・医療の先駆者として、日本で最も尊敬されている医師である。本書を通して痛感したのは、私たちが常日ごろ感じている医学教育や医療の在り方に関するさまざまな問題点を、1973年の座談会「英国の医療とプライマリ・ケア」（J. Fry氏、紀伊國猷三氏、小林登氏）に

始まり、2005年の座談会「誰がために記録はある」（児玉安司氏、阿部俊子氏）に至るまで、一貫して日野原先生が指摘されておられることである。「医療は science をベースにした art である」ということをたびたび強調されていることも印象深い。

最近になってわが国では、幅広い診療能力を持った総合医（総合診療医）、さらに総合医としての能力をベースに持った専門医の存在の重要性が広く認識されるようになってきているが、このことも日野原先生は本書の中で繰り返して強調しておられる。病歴の聴取や身体所見の的確な把握の技術を身につけることの重要性を指摘し、検査中心の医療の現況を繰り返し批判

している。私はこのような日野原先生の考えに全面的に賛成である。

本書は対話形式のものが大部分を占めているため、非常に読みやすかった。また、私がかねてから敬愛する先生方が数多く登場されておられることもあって、楽しくかつ懐かしい思いで読了することができた。最初の章が「この先生に会いたい!! 日野原重明先生に聞く」という講演録であり、「研修医に是非読んでもらいたい本」という関連記事も付いているが、本書はその言葉通りの内容である。ぜひ一人でも多くの若い医師に読んでいただくよう、強く推薦する次第である。

●A5 頁 264 2012 年
定価 2,310 円
(本体 2,200 円 + 税 5%)
[ISBN978-4-260-01706-0]
医学書院 刊